



▲不幸な犬や猫を減らす地域猫活動や犬猫支援活動のために開催された『春をよぶチャリティーコンサート』。173人の参加者が美しい歌声とピアノの演奏に耳を傾けました。誰もが聞いたことのある曲からオペラ曲まで多種多様な14曲を披露。東日本大震災復興応援ソング「花は咲く」を参加者と合唱するシーンもあり、多くの方が声をそろえて歌いました。

3月13日(日)／市民文化センターミュージズ  
(動画：市民カメラマン・笠原政男)



今回の市民レポーター!

前列左から岡山深雪さん(牛沼在住)、新井絵理奈さん(入間市在住)、穴田直子さん(松葉町在住)、後列中央の穴田倫之さん(松葉町在住)の4人です。

今回の突撃先!

埼玉西武ライオンズ「レオ」(後列右)「ライナ」(後列左)ファンの皆さんをパフォーマンスで盛り上げる球団公式マスコット。チームの勝利のために、声援と演出で選手を後押ししています!

レポート「今年のプリンスドームは変わった?」

今年の西武プリンスドームはプロ野球で初の野球専用人工芝に一新! 柔らかい芝なので、足への負担を和らげます。その新たな芝でノックやベースランニングなどの野球体験ができるイベントが開催されています。さっきまで試合が行われていたグラウンドで、選手と同じ目線で体験できるこのイベントは、水曜日は女性、金曜日は社会人、土曜日は子ども、日曜日はどなたでも参加でき、ゲストにライオンズのOBが来ることも! もちろんレオとライナも待っています♪試合後すぐ帰るのがもったいないですね!

前回芝の張り替えを行った2008年は日本一に輝いています。今年も芝の張り替えが日本一への架け橋になるといいですね!



▲レオ・ライナと一緒に一足先に体験♪

レポートを終えて

人工芝はクッション性があり気持ちよかったです。足への負担が和らぐので、けがも減って長く活躍する選手が増えるのではと期待しています。応援し続けますので、今年こそは優勝を待っています!

田邊徳雄監督から市民の皆さんへメッセージ

埼玉西武ライオンズは、今シーズンのチームスローガン「BEAST! 強く、猛々しく。」のもと、シーズンを通じて、「BEAST」(野獣)のように強く、猛々しく、チーム一丸となって優勝を目指し戦ってまいります。また試合後には、我々が戦ったグラウンドに降りて新しくなった人工芝を体験できるイベントも開催しています。市民の皆さん、ぜひ西武プリンスドームにお越しいただき、我がライオンズに熱い声援をお願いします。

商業観光課 ☎2998-9155



▲市内に工房を構え、世界最高峰と評される「ムラマツ・フルート」を使った「初心者のためのフルートはじめて講座」。持ち方を教わったり、口に当てて音を出したり、基本動作からスタート。子どもも大人も真剣そのもの。先生から「酸欠にならないように!」と注意があるほど皆さん熱が入っていました。

2月27日(土)／市民文化センターミュージズ  
(写真：市民カメラマン・佐藤清一郎)



市内イベントの撮影を市が委嘱している市民カメラマン。その中に、大学2年生で市民カメラマンとなった後、プロ写真家として世界へ羽ばたいている青年がいます。八木豪彦さん(27歳)。

「まさか市民カメラマンになったときは自分が写真の道で生きていくとは思っていませんでした」と少し照れくさそうに語る八木さんは、平成27年、国際的に活躍できるドキュメンタリー写真家を発掘するために行われた「日経ナショナルジオグラフィック写真賞2015」のグランプリを受賞しました。農学部在籍していた大学時代、授業の一環でカメラを持ったことが写真を始めたきっかけでした。「カメラを持つことで世界を見る視点が変わったんです。レンズ越しに世界を見ると、普段気にしていなかった部分、例えば人の表情や日常の中にある小さな喜びに気付けるようになって、時間を忘れて撮影してしまうくらい写真の世界にのめりこんでいきました。今は日常の中にある瞬間、眠っている感動を伝えたいと思いながらシャッターを切っています」。

今回の受賞作もそんな八木さんだからこそ撮れた写真です。タイト

新たなステージへ旅立ちの時  
長い闘病の末、2年前に夫が旅立ちました。その後、住みながらアパートで愛猫と一緒に暮らした。子どものいない私は寂しい気持ちでいっぱいだった。今後のことを考えると、どこか理由もなく、所沢の実家に戻ることになりました。まだ、ふっとしたとき涙がこぼれますが、夫や愛猫が旅立ったように、今度は私が彼らとはまた違うステージへ旅立つ時なのかもしれません。まだこれからは人生を歩んでいきたいという希望は湧きませんが、それでも毎年一つつつ姉さん女房になっていこうと思います。



スマホで動画! アプリでARのある写真を写すと動画が見られます。詳細は市HP(「AR」で検索)へ



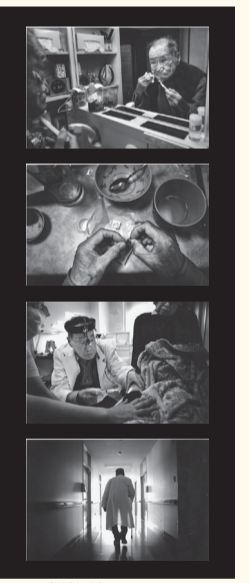
▲小さな子どもからおじいちゃん・おばあちゃんまで、地域のみなどで交流しながら楽しむ『富岡三世代まつり』。紙芝居など見て聞いて楽しむものや、あやとり、竹馬など自分で体験するコーナーもあり、子どもたちは大はしゃぎ! 世代を越えて一緒にまつりを楽しみました。2月28日(日)／富岡まちづくりセンター  
(写真：市民カメラマン・白須信一)

写真賞グランプリ! 世界へ羽ばたく市民カメラマン

市民カメラマン 八木 豪彦さん(小手指台在住)

ルは『88歳の現役医師』。医師として働く祖父の日常を記録した作品です。「祖父が引退すると聞いて『医師としての祖父の表情を残したい』と一週間密着取材しました。起床、朝食、血糖値を下げる薬を飲み、職場へ。撮影を通して祖父と向き合うことで、改めて祖父の力強い生き様に気付くことができました。身近な人を追ったこの作品が、応募総数699点中、見事1位に輝いたのです。現在、日本だけでなく海外へも活躍の場を広げています。もちろんプロとして生きていくのは簡単なことではありません。しかし、きっとこれからも私たちを魅了する写真を撮り続けてくれる。そう信じさせてくれる力が、八木さんの言葉にはあります。

「今の自分があるのは、たくさんの人に会えたから。出会った全ての人に感謝しています。いろいろな世界を見て、他の人が知らない、気付かない世界を撮っていきたくです。まだ課題は山積みですが、とにかく自分のことを信じ抜いて泥臭く頑張っていきます」。



▲受賞作

人生という長い旅。自身、半世紀以上生きてまいりました。1年ほど前、高校時代の友人から「50年以上生きなさい、死ぬ前に会おう!」と  
ケセキの夜  
上新井 相原 洋  
旅といつ、小学生のときの遠足のお弁当を思い出します。お弁当は丸い手のひらサイズのおにぎり、厚みのある玉子焼き、少ししよっぱいウインナー。お昼の時間になると、お弁当にがついていました。実は、そのお弁当、ただのお弁当ではなかったのです。大人になって、私もお弁当を作る機会ができました。愛情を含め、お弁当には変化があることがわかりました。母のお弁当はいつもおいしいんです。それは愛情を毎回込めてくれていた証拠。早起きして、お弁当を作ってくれていた母に感謝しています。早起きさせるのは悪いなと思いつつ、母のお弁当がまた食べたくなりました。



▲昨年も好評だった『新三八市』と謎解きウォークラリー「トコロん探偵団」。新三八市では、時代着物市や、狐の嫁入り道中などが行われ、時代を越えた雰囲気を楽しむことができました。トコロん探偵団は、多くの子どもたちが探偵団の一員となってナゾ解きにチャレンジ! その様子はAR動画をご覧ください。

3月12日(土)／中心市街地  
(写真：市民カメラマン・浅見司郎/動画：同・宮本博史)

地域の絆 やっぱり自治会・町内会でしょ! 22(終)  
ご近所同士で力を合わせ、さまざまな課題解決や地域の絆づくりを行っている自治会・町内会をご紹介します。

駅前通り団地自治会 ~やっつます! 念願の野菜販売~



▲北川会長

「いらっしゃいませー!」。毎週水・金曜日に、航空公園駅の駅前通り団地「パークタウン」で元気な売り声が聞こえます。これは、昨年11月から行われている野菜移動販売の声です。「活気があって良いでしょ」と話すのは、この移動販売の仕掛け人、駅前通り団地自治会の北川 洋会長。約35年前に建てられ、12棟からなるこの団地では、約800世帯が生活しています。

以前は、パークタウンの中にも青果店がありましたが、数年前に撤退。その後、主に高齢者世帯から「パークタウンの中で買い物したい」という相談が北川会長のもとに数多く寄せられました。住民の悩みを解決すべく、北川会長自ら行動を開始しました。

まず、移動販売を委託する事業者を、障害者の雇用を進めている(株)に依頼。同社は近隣の富岡地区で野菜を作っているため、新鮮でおいしい野菜が手に入ることが決め手でした。また、販売場所を確保するために、団地の管理会社と何度も交渉しました。



▲所沢産野菜が並ぶ移動販売

このような北川会長の熱心な行動の結果、念願の野菜移動販売が来店できるようになったのです。出店から5カ月が経ち、今では開店後わずか2時間で完売してしまうこともあるそうです。

この他、子どもとの触れ合いを大切に、毎年10月に並木小学校にチューリップの球根を150個プレゼントしています。1年生と一緒に球根を植える活動や、3年生との昔遊び会などを通して、近所の子どもたちとの交流を図っています。

自治会の活動費用のほとんどは集団資源回収の報償金で賅っているそうで、「自治会活動ができるのも、みんなの協力があってこそ」と北川会長。これらの活動についてやりがいや「子どもと高齢者の笑顔が一番のご褒美です」とやさしい笑顔で語ってくれました。

地域づくり推進課 ☎2998-9083